The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ドルガン語韻文作品「幸もてる者」(オグド・アクショーノワ作)について
Author(s)	藤代, 節
Citation	内陸アジア言語の研究. 2002, 17, p. 25-60
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/17272
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ドルガン語韻文作品「幸もてる者」（オグド・アクショーノワ作）について

藤代　節

庄垣内正弘教授がチュルク語研究に邁進なさる姿を仰ぎみて20年になる．教えを受けた事柄は数知れぬが，北方チュルク語研究の扉をたたく勇気を与えてくださったことに深く感謝し，教授の還暦を寿ぎ，この小論を捧げる．

0. はじめに

ドルガン語は言語学的には北方チュルク語，ヤクート語の一方言として扱える言語である．しかし，その使用状況からみて独立した言語として扱われるべき点も多い．本稿ではドルガン語による韻文作品について，その原文とともに和訳を掲げ，解題を施したい．

1. ドルガン語

ドルガン語はロシア連邦クラスノヤルスク地方タイムル自治管区および隣接するヤクート（サハ）共和国（ヤクーチヤ）アナバル地区に居住するおよそ6000人の人口を持つドルガン人の言語である．この言語の成立はドルガン人が一つの民族集団としてアイデンティティをもつまでのプロセスと密接に結びついている．ドルガン族は現在の主たる居住地であるタイムル半島に17-18世紀頃に形成された民族集団である．この比較的新しい民族の成立基盤は複雑である．ヤクーチア北西部から移動してきたエベンキ人及びヤクート人が，タイムルに先住しもっぱらトナカイ飼育に従事していたエベンキ人に合流し，さらに周辺

の各地に傭兵や商人等としてヨーロッパロシアから移住してきていたロシア人も参加し，この新しい民族が形成された．これらの人々が意志疎通のための共通の言語として選んだのが当時シベリア全域で広く使用され，時にはシベリアの諸民族の間でリンガフランカの役割を果たしていたヤクート語であった．このヤクート語を基盤にドルガン語が成立した．ドルガン民族の形成過程においてヤクート語話者ではなかった集団は自らの言語を下層言語とし，やがてドルガン語を母語として言語共同体としてのドルガン族の一角を成していったのであろう．

ドルガン語は言語学的にはヤクート語のタイムル方言とみなせる言語であるが，語彙のレベルにおいてヤクート語標準語とは差異が大きい．1940年にウブリヤトワが「ノリリスクのドルガン人の言語」として研究対象にしてより後，ドルガン語をヤクート語とは別個の言語とみなす傾向がある（Убрятова: 1985）．ドルガン語の独立性を強めた要因は標準ヤクート語との語彙の隔たりの他に，ドルガン人が自らの民族集団としてのアイデンティティをその言語にもとめたことも大きい（藤代: 2000）．さらにドルガン語の独立性を高めたのは正書法の成立である．

ドルガン語による最初の印刷出版物としては1973年にドルガン人詩人オグド・アクショーノワによる詩が発表されている．この詩集『バラクサン』(Аксенова: 1973)においてドルガン語の表記はすでにヤクート語の標準的表記からは外れている．ここからはじまり，ドルガン語アルファベットが1978年に公式に認められるまでの過程をたどるのであった．やがてドルガン語独自の教材によりドルガン語教育を行うべきであるという信念のもと，オグド・アクショーノワは同じくドルガン人出身の教育学者アンナ・バルボーリナとウラジーミル・パルフィーリエフとともにドルガン語アルファベット教本の作成に取り組んだ．このアルファベット教本(初等読本)の作成には試行錯誤が繰り返された．1981年に実験的教科書が作成され，かなり大幅な改訂を経た後，1990年にはじめての『初等教本』の出版がレニングラード市にある教育出版社からなされた(Аксенова,

Барболина: 1990)．1992 年には同社から北方少数民族の学習辞典シリーズの一巻として『ドルガン語・ロシア語＝ロシア語・ドルガン語辞書』(4000 語) が出版されるに至った (Аксенова et al.: 1992)．

2. 詩人オグド・アクショーノワ[1]

初めてのドルガン人出身の作家であるエブドキヤ(オグド)・エゴロブナ・アクショーノワはタイムル(ドルガン・ネネツ)自治管区アバム地区ボガニダ村にて1936 年 2 月 8 日に生まれた．

父エゴル・ドミトリエビッチ・アクショーノワは共産党アバム地区委員会書記であり，母フェドウシャ・カルポブナは主婦として 3 人の子どもを育てる婦人であった．オグドは幼少時代から祖母のジエブギエンからその教育において大きな影響をうけていた．

エブドキヤ・アクショーノワはロシア語での詩作はすでに 5 年次に在学中に始めており，その作品は地元紙に取り上げられることもあり，また散文作品が賞をとるなど，早くからその才能は注目されていた．

中等学校卒業後，イルクーツク大学に入学したが，健康を損ない卒業は果たせなかった．ハタンガ地区のカトゥリク村，ジュダニハ村，ノボリブノエ村にて教員と司書を兼ね，また赤色チュム(北方各地に革命後設営された共産主義文化活動拠点) の指導者として働いた．

アマチュアの文化活動のオーガナイザーとしてエブドキヤ・エゴロブナは囃し唄，歌を創作し，さらに後には母語であるドルガン語で詩を創作するようになった．それら作品群は数多のコンクールで入賞を果たすなどした．

1969 年にクラスノヤルスク書籍出版から『極地日』シリーズの一冊として詩

---

(1) Огдо Аксенова オグド・アクショーノワのロシア名は Евдокийа Егоровна Аксенова エウドキヤ・エゴロブナ・アクショーノワである．オグド・アクショーノワの略歴などについては Семенюк (1993) に拠った．

集『初日の出』が O. アクショーノワ，L. ニェニャング[(2)]，その他の詩人等の詩を載せて編まれた．

そのころから，モスクワのレオニド・ヤフニン，Al. ゾリン，またクラスノヤルスクのアイダ・フョドロワ，他にもオグドの詩を翻訳しようという人々が現れるようになった．

タイムル民族管区 40 周年記念に管区の民族芸術館により O.アクショーノワの詩集が小冊子として刊行された．

1973 年にクラスノヤルスク書籍出版からオグド(エブドキヤ)・アクショーノワ著『バラクサン』(Аксенова: 1973)が出版された．そこには謎々もあれば諺や古くからの言い伝えなどのフォークロールの要素が豊富に盛り込まれていた．ドルガン語による初めての書籍『バラクサン』はドルガン語の書法が作られる以前に出たものであった．つまり，当時，『バラクサン』は実際的には同時に初等読本でもあったといえる．

良い声に恵まれ，音感もよかったこともあり，エブドキヤ・エゴロブナは年老いた猟師達や竈を守る女達に教わったドルガンの歌の旋律をすぐ覚えることができた．1975 年に『ドルガンの歌』，1976 年に『ツンドラ模様』が出版されると，オグドによる詩や囃し唄にドルガンの人々は遠い祖先の旋律を感じ，ツンドラの伝統が歌い込まれているのを認めたという．

その後もますます創作活動を活発に行い，北方少数民族出身の文学者として活躍したが，1995 年 1 月 14 日の未明にドルガン人最初の詩人，作家，教育者であり，また北方チュルク文化活動の旗手であったオグド・アクショーノワはなくなった．ドルガン語・文学の分野のみならず，北方諸民族の文化活動においても大きな損失であった．本稿に掲げる「幸もてる者」は作者オグド・アクショーノワが詩集『バラクサン』を世に問うた同じ年に創作され，ごく近年までドルガン語原文が未刊行であった作品である．

---

(2) タイムル自治管区に主に居住する「北方少数民族」の一つ，ガナサン出身の詩人，作家．

3.「幸もてる者」

3. 1　背景など

この作品は上記のように1973年にドゥジンカ市にてオグド・アクショーノワによって書かれた作品である．当時はロシア語訳によってのみ発表された．オグド・アクショーノワの作品を多く翻訳し，作者と親交の深かった翻訳家でありまた自身も詩人であるワレーリィ・クラベツにオグド・アクショーノワが自ら逐語的にロシア語に訳し書き送ったものをクラベツがロシア語の韻文作品に整え発表した．クラベツ氏の訳はオグド・アクショーノワの原文の意図を損なわない翻訳である．オグド・アクショーノワのドルガン語原稿はその死後，クラベツの元から，原稿整理をおこなっていたアンナ・バルボーリナのもとに届けられた．その後，2001年にはこれら未刊行の作品を含んだ作品集が発表されたが，「幸もてる者」もそこに含まれている（Barbolina, A.A., Fujishiro, S. (eds.)：2001）．原文は3部からなり，462行をもつ．オグドの韻文作品のなかでは最も長い作品である．

「幸もてる者」は帝政ロシア時代末期，社会主義革命前夜にシベリアの少数民族ドルガン族に生まれたバフルガスという幼名を持つドルガン人男性の生涯を語った叙事詩である．随所にシベリアのトナカイ飼育者らの生活をシャーマニズムなどの伝統的なモチーフを用いて描き，一方で，革命期の混乱，その後のソビエト政権確立後の民族の生活の変遷を記している．

ドルガン族の形成の歴史は細部まで明らかになっているとは言い難い．とはいえ，ロシア人が主に17世紀以降，帝政ロシア政府の権力を背景にシベリアに侵出して以来の歴史は，断片的な場合もあるが文献として残されている．それらから辿ってもシベリアの民族集団の再編はあちこちで生じており，ドルガン族も複数の民族集団が再編された結果，形成された集団である．従って，ドルガン語にはその言語共同体の形成にかかわった人々のかつての使用言語の要素が数多みられる．このオグド・アクショーノワの作品の中にもロシア語やエベンキ語等の要素が多くみられる．後掲のドルガン語テキストの注においてはそ

れらの点についても言及した.

3. 2.「幸もてる者」ドルガン語原文について

3. 2. 1. 脚韻

「幸もてる者」は全462行, 113連からなる. 大半の連が4行からなる. 第1連7行, 他に第83, 89連が2行, 第45, 77, 81連が6行, 他に第96連が9行からなる. ほぼすべての連が脚韻を踏んでいる. 4行からなる連の脚韻のパターンと頻度は以下のとおりである.

該当する連の数	82連	17連	3連	2連	1連 ／106連
第1行末	A	A	A	A	A
第2行末	A	A	A	B	B
第3行末	B	A	B	C	B
第4行末	B	A	C	C	B

その他, 4行の連以外の7連は各々, 以下のような脚韻を踏んでいる.

第1連：AABBBCC　第83, 89連：AA　第45, 81連：AABBCC

第77連：AAAABB　第96連：AABBBBBBB

「幸もてる者」が脚韻を踏んでいるのはドルガン語形成の基盤となったヤクート語の口承文芸オロンホ(英雄叙事詩)におけるのと同じである. オロンホにおいては時に頭韻も厳密に踏まれることがあるが[(3)], 「幸もてる者」においては頭韻はほとんど踏まれていない.

ドルガン語の韻文における韻の踏み方については, 今後, チュルク系諸言語

(3) 以下にオロンホ「威風堂々たる独り者 Mogučij Är soγotox」の冒頭の部分をKaратаев (1996) より掲げる. 和文は拙訳. ここでは3行ごとの脚韻 (-Ïm, -Ïn, -GAr) と, 3行づつ頭韻を踏んでいる.↗

の韻文における韻の有り様に加え，周辺の他系統言語の韻の踏み方とともにさらに考察を加えねばならない．

3. 2. 2. ロシア語借用語彙

ドルガン語にはその形成に複数の言語が関わっているため，それらの言語からの借用語彙が多くみられる．ここでは「幸もてる者」に現れるロシア語借用語彙について言及する．既述のようにこの韻文作品は3部からなるが第1部が革命前の時代背景で描かれ，第2部は革命直後のソビエト政権が極北地方にも及んできた当時を描き，第3部が第2次世界大戦中の回想とその後のドルガン人の生活を描いているので各々に現れるロシア語借用語彙の性格とそれら語彙の借用形式に差異がみとめられる．ここではそれらについて述べたい．

3. 2. 2. 1.「幸もてる者」に現れるロシア語借用語彙

以下に文中に現れるロシア語借用語彙を各部ごとに掲げる．( )内は対応するロシア語彙である．(4)

↘Bïlïrgï d'ïlïm	遠い昔の我が歳月の
Bïstar mïndaatïn	切り立つ頂の
Bïdan ïnaraa öttügär,	遥か彼方に
Urukku d'ïlïm	遠き我が歳月の
Oxsuhulaax uoryatïn	競いあう山脈の
Otoj annaraa öttügär,	さらに彼方に
Aaspït d'ïlïm	我が過ぎ去りし歳月の
Anïsxannaax ajdaannaax künün	寒風の中の騒がしき日々の
Ad'as anaraa tahaatïgar,	ずっと向こうに
Kuopput d'ïlïm	駆け去った我が歳月の
Kudulγannaax kudan ölüü uoryatïn	飽くことのない死の山脈の
Kuoharalaax xonnoγor	深き懐にいて

(4) 本項の借用語彙中のja, ju, jo は，各々，ロシア文字の я, ю, e (ё) で表記される．転写について詳しくは本稿 p. 34 をみられたい．

第1部

molippa (молитва)「祈り」 kiil (<*rus.* киль?)「橇等の滑り木」[5] buospa (оспа)「疱瘡病」

第2部

Ujbaan (Иван)[人名] kolkuos (колхоз)「集団農場」 hübä (совет)「ソビエト(議会)」 kommunis (коммнист)「共産主義者」 jakut komsomol (якут, комсомолец)「ヤクート人，共産青年同盟員」 Osipov(Осипов)[人名] otrjat(a)～otrjad(ï) (отряд)「部隊」 bukva (буква)「文字」 mahuorka (махорка)「マホールカ（安価な刻み煙草の一種）」 učuutal (учитель)「教師」

第3部

Nïkïï (Николай)[人名] ostool (стол)「机」 belorus (белорус)「白ロシア人」 tatarin (татарин)「タタール人」 buomba (бомба)「爆弾」 lüötčük (лётчик)「飛行士」 samolet (самолёт)「飛行機」 haldaat (солдат)「兵隊」 bärdanka (берданка)「ベルダン銃」 raketa (ракета)「ミサイル」 Noroliskaj (Норильск)[地名] purgaa (пурга)「吹雪」 Sovet (Совет)「ソビエト」 gaas (гас)「ガス」 Palagiäj (Пелагея)[人名] duoktur (доктор)「医者」 radiba (радио)「ラジオ」 gazet (газет)「新聞」 nemis (немец)「ドイツ人」 kommunist (коммунист)「共産主義者」 biliät(-tääx) (билет)「証明書-[～を持っている者]」 sekretar' (секретарь)「書記」 partbiliät (партбилет)「共産党員証」 partija(партия)「共産党」 Lenin (Ленин)「レーニン[人名]」 Buran (Буран)「ブラン」[電動橇のブランド名] tabaagï (<*rus.*табак?)「煙草」 ispiiskä(спичка)「燐寸」 privivka (прививка)「ワクチン」

「幸もてる者」に現れるロシア語借用語彙はそれぞれの部で語られている内容の背景によく即した意味内容を持っている．数の上でも第1部～第3部へと進

(5) kiil はロシア語からの借用である可能性がある．Пекарский(1907-1930)ではロシア語借用とされてはいない．

むにつれ，増えてゆく．

借用語彙の形式については kommunis(2)[6]～ kommunist(3), hübä(2)～Sovet(3) のように部によって形式が異なるものがみられる[7]．主に第3部にあらわれる借用語彙形式はロシア語の綴りを取り込んでいる[8]．中には otrjat-a(2)～otrjad-ï(2) (*<rus.* отряд [atrját]) にみられるようにロシア語綴りを取り入れながらも揺れがある借用形式もある：前者は3人称単数所有接尾辞，後者は無人称名詞変化対格語尾が付加した形式である．

一方，比較的古い時代に借用された語彙の形式はドルガン語の音韻体系に沿った形式で借用されている．たとえば，上掲の hübä(2) については次の点を比較的早い時代の借用特徴として指摘できる：i) 語頭の s に対応する音として h があらわれている；ii) ドルガン語に本来的でない音 [v] を [b] で借用している；iii) ロシア語のアクセントが第2音節の e (前舌母音) に落ちているので，これを反映して母音調和をほどこした形式で借用している[9]．

さらに古い借用と思われる molippa(1) はロシア語 molitva の [v] を [b] に対応させた後，tb をドルガン語に合わせて [pp] に変えた．ここでは母音調和は借用形に反映されていない[10]．

---

(6) 語彙に続く ( ) 内の数字は部を表す．

(7) ロシア語 sovet「アドバイス，ソビエト (議会)」のヤクート語での形は sübä「アドバイス」，sovet「ソビエト (議会)」の2形に分かれている．

(8) ドルガン語正書法では新規に導入されるロシア語借用語彙については本来，ドルガン語にはない音を表すロシア文字(в[v], е[je], ё[jo], ж[ʒ], з[z], ф[f], х[x], ц[ts], ш[ʃ], щ[ʃ'tʃ'], ю[ju], я[ja])の綴りのまま書き表すことを原則としている．しかし，ドルガン語話者は，たとえばロシア語からの借用語彙 самолёт (samoljot)「飛行機」を発音するときに，ドルガン語の音韻特徴である /s/ → [h]/#__, V__V を適用し，[hamaljot]と発音することもある．

(9) ここにあげた借用特徴は ii) および iii) はヤクート語がロシア語語彙を借用する際にも見せる特徴であるので，i) がヤクート語を経由したロシア語借用形に適用された可能性もある．さらにヤクート語 sübä「アドバイス」が，チュルク語に本来的な語彙であり (cf. Пекарский(1907-1930); сӱбä)，ドルガン語において，ロシア語借用語彙と混合してしまった可能性もある．

(10) ロシア語 molitva はアクセントを第二音節に持つので予想されるドルガン語形式は↗

「幸もてる者」にあらわれる借用形式にはその他にも固有名詞にロシア語借用が多々みとめられる．それらは各々，ドルガン語の規範を様々に反映した借用形式をもっている．

この韻文作品「幸もてる者」を貫くモチーフである「疱瘡病」はタブー語をさけるための借用語彙で表されている：buospa(1)．なお，「疱瘡病」を表すタブー語としては ämäxsin「老女，おばあさん」が使われることもある．これらに加え，ヤクート語では äd'ii「年配の女性，父方の年長の女性親族」を以て「疱瘡病」を表すことがある（Пекарский:1907-1930）．

4. ドルガン語テキストと訳

以下にドルガン語テキストと和訳を掲げる．和訳は原文からの逐語訳であるので原文のもつ韻文作品としての特徴が損なわれている場合も多い．

転写：キリール文字基盤のドルガン語文字，ヤクート文字及び一部ロシア語文字などの転写は特に断らない限り，以下によった．

а = a	е = e	л = l	п = p	ф = f	ы = ï
б = b	ё = jo	м = m	р = r	х = x	ь = '
в = v	ж = ž	н = n	с = s	ц = c	э = ä
г = g	з = z	ҥ = ŋ	h = h	ч = č	ю = ju
ҕ = γ	и = i	нь = n'	т = t	ш = š	я = ja
д = d	й = j	о = o	у = u	щ = šč	
дь = d'	к = k	ө = ö	ү = ü	ъ = "	

↘ maliippaである．ロシア語語彙のアクセントの位置は概ね借用形式に反映される（例: haldaat（ロシア語 soldát））．古い時代に借用された形式であるとすれば，ドルガン形成に関与したロシア人のロシア語の特徴を反映しているのかもしれない．Пекарский（1907-1930）にはヤクート語へのこの借用形式についての記載はない．

D'OLLOOK[11]　　幸もてる者[11]

I	第一部　老獪な疱瘡
Kohoonnorum, hähäännärim,	我が言葉よ　我が物語よ
Ojuuktarïm[12], tojuktarïm.	我が生き生き描くものよ　歌達よ
Hürägim kaanïn täbiilärä,	我が心臓を脈打つものよ
Koŋdoj koksu küömäjdärä[13],	喉元の空洞をとおる声よ
Ïraak ajan ïrïalara.	遠くツンドラを行く歌よ
Tuoktan, tuoktan kirbinniigit ?	いったい何処からやってきたのか
Tuogu öjdöön hanaatïgït ?	何を思って語ろうとするのか
His muorataagï öttügär,	ツンドラの果てに
Mas kaltaabït[14] hagatïgar,	樹木の尽きるところの端に
Köhön kälän tüspüttärä,	ツンドラをわたり到来した
Ügüs kärgän ätilärä.	多くの家々があった
Kïhïlïïr hirgä tijännär,	大地が色づく頃にやってきて
Küöllärgä ilim üttännär.	湖に網をしかけて暮らした
Karaŋa kïhïn ïgajda,	暗い冬がやってきて

(11)　この作品「幸もてるもの」はドルガン語では未刊行である．ロシア語訳版の第1部のタイトルは直訳すれば「ばあさん疱瘡（疱瘡災難）」となる．「疱瘡」に前置された「ばあさん」(dol. ämääxsin)はエピチェットで尊敬や畏怖の対象となる事物についてドルガン人が頻繁に用いる．他に「じいさん」ähä を使うこともある．例えば，「ばあさん冬→冬ばあさん→冬将軍」「じいさん熊→熊爺さん→熊親爺」等．なお，第1～3部の副題はロシア語訳版に付されていたものの和訳である．

(12)　ojuuktarïm, tuojuktarïm ; ojuu「絵，絵画，模様，装飾」，tuoj「歌う，来し方を歌にする」; tuojuktarïm; *ojuuktarïm* の *k* は tuojuktïm「我が歌としたもの」と韻を踏むために挿入された可能性がある．

(13)　koŋdoj「空っぽの，中が空の」

(14)　kaltaa-「樹木がまばらになる」

Kaan butugastïï[15] kojunna.	血の澱が沈むように深まっていった
Äräjdääk muŋnaak olokton,	悪いことには不幸がかさなるもので
Äräj arakpat amattan.	この二つはどうしてもはなれない
Kallaantan d'ürü tüspütä?	空から降ってくるのか
D'ürü ötöktön[16] köppütä?	昔のたたりで地から出てくるのか
Ĭallarga ïarïï tunujda...	となりの衆も罹った．．．
Kahuon daa kihi ïarïjda.	いったいどれだけの人が犠牲になるのか
Baaska battatan ölöllör.	疱瘡が出て　死んでいく
D'iälääktär hutaan ihällär.	家の者達は飢えていく
Ĭallarga ïarïï tunujda...	となりの衆も罹った．．．
Kolbogo mas tijbät buolla.	箱に木を立てた
- Abïraa, taŋara - diillär.	神様お守りくださいと皆で祈る
Ĭarïï toktuurun küütällär.	病がおさまるのを皆　待っている
Bihiktän in'ätä arakpat,	揺りかごから離れない母がいる
Ogoto amattan ämpät.	その子はもう乳を吸わない
- Allara ïallar ïald'allar.	「病気になるのは川下の人たち」と
Kistään hipsijär ol d'aktar.	母はこっそりささやいてみる
Oččogo diäččilär ïarïï,	その時　病がやってきて
Baraaččï oloru kördüü.	母と子をみつけ

(15)　kaan butugastïï「トナカイの血のスープ」
(16)　ötök「かつて誰かが住んでいた場所のこと，廃墟」

Ikkihin öŋös gïmmïta,[17]	二人に目をやったかと思うと
Ogoto bïstan kaalbïta.	その子はこと切れた
Ïallarga ïarïï tunujda...	となりの衆も罹った．．．
Hïrga doskoto orpoto.	櫂の板を剥がして
Hajtaaŋŋa ahï biärällär,	サイタン（家神様）にお供えをしている
- Bugaat[18] abïrïa, - dähällär.	何卒お助け下さいと言い合っている
Ïallarga ïarïï tunujda...	となりの衆も罹った．．．
Kïrd'agas, ogo diäbätä.	老人も子どももしゃべらない
Taŋahï, übü alastaan[19],	服も道具もお祓いして
Molippa[20] aagallar aartaan.	ただお祈りの言葉を繰り返すだけ
Kantan kim kälän abïrïaj?	どこから誰が助けに来てくれるというのか
Ölüünü kim batan ïïtïaj?	死を誰がやっつけて追い払えるというのか
Kihi aŋara baranna...	もう半分ぐらいの人が死んでしまった．．．
Kohuon daa ačaak utujda...	いったいどのくらいの竈の火が消えただろうか．．．
Kün tüspütä. Karaŋarda.	日が沈んだ　暗くなった
Hïrdïkpït maabït ustata.	光は投げ縄の長さに短くなった
Ïraaktan hïrgalaak källä,	遠くから櫂がやってきた

---

(17)　öŋös gïmmïta「さっと見回した」cf. -s (-x, -k) + gïn-で「瞬間的一回性」をもつ動詞を形成する．

(18)　bugaat（強調の叙法詞）ここでは「死から絶対に救ってくれ，病を是非とも逃れさせてくれ，今すぐ助けてくれ」の意になる．

(19)　alastaa-「燻蒸する，バチがあたらないように消毒する」

(20)　molippa <*rus*. molitva「祈り」cf. moliitba - molitpa - molippa 母音調和は満たしていない．

Ogonn'or utarï barda.	老人が迎えに出た
Kïrd'aa iliitin uummata,	老いた手を差し出すことをせず
Tïaltan allara turunna,	風下に立って
Ïarïï hïstïmïan ïald'ïkka.	病が客に当たらないように
Mäŋästän (21) barïmïan ïallarga.	傍から客へ感染らないように
Ologun barïtïn käpsiir,	一同の状態を話している
Hürägä ïgajan ïtïïr.	心に迫ってきて泣いている
- Türgännik mantan barbaktaa,	すぐにここへ入ってきてはいけない
Kim - daa kälbätin, ildittää.	誰も入ってこないように伝えなさい
- Barïbït utujar kördükpüt,	私達は皆　こんな風に眠っている
Anïkaan uonča ortubut,	今のところ生き残っているのは10人ほどだ
Tugut törüürün inninä,	(トナカイの) 産月のすぐ前になったら
Kaalbïtï käliŋ karaja.	残った者達を埋めに来ておくれ
-O! Bïïhaa, abïraa, taŋara..,-	ああお助け下さい　お救い下さい　神様. . .
Hïrgalaak küräjin kapta,	橇の人はホレイ杖を掴んだ
N'onuhut tabatïn asta,	先頭のトナカイが過ぎていった
Karagïn uuta bürüjdä.	その目は涙で一杯だった
Huol üstün, kïrd'aa algaata,	老人は道中の無事を願い
Üstä kat onton üŋünnä.	3回唱え　祈った
- Haatar ähiäkä kün tïktïn,	「おまえ様方の上に太陽が出てくるように

(21)　mäŋästän「一緒に乗って」

D'ollook olokto biärdin.	幸せな暮らしが与えられますように」
Tabalar ürpüttüü köttülär.	トナカイたちは飛ぶように走った
Tuogu daa körböt buollular.	無我夢中で疾走した
Ĭtïïllar taajan tabalar.	嘆きを察したのだ　トナカイたちも
Ĭtïïllar kaalbït kihilär.	人々はただ泣くばかりだった
Hïrga kiilä kïčïgïrïïr,	橇の底骨は音を立てて軋んだ
Ogonn'or haŋatïn öjdüür.	老人の話しを語っている
Hir in'ä baraksan ïtïïr,	母なる大地は大いに嘆き
Ot, mas barïta d'ïrïlïïr.	草も木も皆　すすり泣いている
- Ĭallarga ïarïï tunujda...	となりの衆も病にやられた．．．
Hïrgalaak tijän käpsäätä.	橇の人は帰り着いて、話した
Allaak tabanï kölünnä,	元気の良いトナカイを繋ぐと
Ojuŋŋa härätä kötüttä.	シャーマンに知らせに駆けて行った
Üs künü ojun tärinnä.	シャーマンは３日間というもの準備した
Turarï, turbatï[22] musta.	あれやこれやを集めた
Uraha d'iäni tuttular[23].	ウラハの家が建てられた
Löčüöktär[24] innigä kiirdilär.	地唄衆が中に入った

(22)　tur-ar-ï, tur-bat-ï「(直訳) 立っているものを，立っていないものを」「(意訳) あれやこれやを」

(23)　Uraha d'iäni tuttular.「ウラハの家が建てられた」．ロシア語の不定人称文と同じ構文（目的語 [対格] + 3 人称複数形動詞）で，受け身表現となっている．

(24)　löčüök「シャーマンの歌を繰り返して歌うグループ，地唄方」

Äriän kuogahïn ïgïrda.	斑なアビがつれてこられた
Kuogastïï üögülään barda.	アビのように叫びだした
Tallan kuogastïï tallajda.	斑のアビとなって羽根をひろげ
Uraha d'iä kötö hïïsta.	ウラハの家を飛び出ていった
Üörün kïïrarï komujda.	シャーマンは儀式をして群れを集めて
Iiräkii atïïrdïï möŋtö.	狂った雄馬のようにのたうち回り
Kutujak buolan hïbïrgïïr,	一声あげると北極ネズミに身を変えて
Kihini barïtïn hïllïïr.	そこらの人を嗅ぎ回る
Düŋürün ogusta. Ojdo.	シャーマンは太鼓を打ち鳴らし飛び上がった
Küömäjä boskotuk barda	その声は朗々と響く
- Alaäj, alaj; Alaäj, ..	アラエイ　アライ　アラエイ．．．
Ïarïïnï allara halaj ...	病は下界へ追い払え．．．
Kïïran[25] häniätä baranna.	カムラニエ[25]に憔悴し切って
Pült gïna[26] hirgä olordo.	忽然と地面に座り込んだ
Onton üögülüür kuogastïï	それからアビのように叫び声をあげる
- Kïajbatïm, kïajbatïm.. - di-di.	駄目だ　駄目だ　私には無理だと
Mäniitin tuura bulkujda.	なかなか正気にもどらない
Ačaak diäk hïgarïk ünnä.	竈の方へ這っていって
Kïhïl čoktoru uobalïïr,	赤い燃えがらをいくつも口に放り込んだ

(25)　kïïr-「シャーマンが交霊等を行う」; シャーマンの交霊等を камланье「カムラニエ」とロシア語でいうcf. Фасмер (Эт.):калмать Из чагат. kamlamak. ファスマーによれば，ロシア語 калмать はチャガタイ語の kamlamak（意味は同じ）から．

(26)　pült gïn-「突然，忽ち，大変素速く～する」

Köksütä kïïllïï kakïnïïr.	喉が野生トナカイのように軋む声をあげた
Kihi barïta oduurguur.	人々は皆　固唾をのんでたたずんでいる
Ojun čoktoru uobalïïr.	シャーマンはなおも燃えがらを放り込む
Onton bu hirgä tönünnä.	やがてこの世に戻ってきた
Kuturan bugurduk ättä:	節回しをつけて語るには：
"Ulakan ojun baar ätä.	昔　えらいシャーマンがいた
Huraktaak, aptaak buolbuta.	名高く術に長けていた
Gini huolun kim-daa bïspat,	その道を遮る者はなく
Kün diäki öttünän aaspat.	太陽もはばかるくらいだった
Ogdubaa buolan. Biir kïïhï,	独り者だったので　ある乙女を
Ïlaarï gïmmïta ühü.	嫁にしようと思ったという
Ontuta (27) atagïnan barbït,	ところがいざ出かけてみると
D'iätittän kürään kaalbït.	乙女は家から逃げてしまっていた
- Ogoŋ ogotugar käliäm	おまえの末代まで出向いて
Uokkuttan amattan ututuom.	おまえ達の竈の火を消してやる
Ol ihin ïarïïnï ïïppït.	それで病を送り込んだのだ
Ojun hanaata kïajbït."	そのシャーマンの呪いがかかっているのだ

(27) ontuta cf. *Пек.* онт- [указательное местоимение от *он*; ср. *ман*] употребляется только с притяжательными приставками: онтум, онтуŋ, он то, онтулара - то мое, то твое, то его, то их.[指示代名詞で所有接辞を付した形でのみ使われる：ontum「私のそれ」, ontuŋ「君のそれ」, onto「彼のそれ」, ontulara「彼らのそれ」] 本来，ontoとなるはずの形式がontutaとして現れているのはontuを語幹とみなした再解釈があったのではないか.「彼の彼女は逃げた（選ばれた彼女は家から逃げてしまった）」

Kihi barïta ihilliir,	人は皆　じっと聴き入っていた
Ojuntan kömönü kördüür.	シャーマンに何とかしてくれと頼んでいる
- Bihigini haatar bïhaar,	せめて私達は救うようにしてくれ
Ölüünü batan ïïtaar.	死をやっつけてどこかへやってしまってくれと
O! Ïallarga ïarïï tunujda...	ああ　となりの衆が罹ってしまった．．．
Barï d'on küränän köstö.	人は皆飛んで逃げていった
Ïraak kurpaaskï kötördüü,	遠く雷鳥が飛んでいくように
Hippätin irä ol ölüü.	追い払えないのはこの死のみ
Ürpüt üör kördük targaččï,	吹き飛ばされた群れのように広がって
Kös huola čakalïččï.(28)	あちこちに足跡がこんがらがっている
Buospa - ämääksin kähäjdin.	老獪な恐ろしい疱瘡よ　呪われよ
Huollarï irdään munuoktun.	あちこちに伸びた足跡に迷ってどこかへ行って しまうがよい
O! Ïallarga ïarïï tunujda...	ああ　となりの衆が罹ってしまった．．．
Barï d'iä iččitäk buolla...	どの家も空っぽになってしまった
Hürdääk hutaan olorollor.	気味悪く崩れ落ちている
Ölör diäk irä hanïïllar.	今はもうことときれるのを待つのみ
Kim ölüör kün aajï mastïïr.	死に頻した人が毎日　薪を割っている
Nönüö abïratan naastïïr.	かろうじて助かっている状態で薪を作っている
Kännigä kaalbït kihiäkä,	後に残る者のために
Bagar hïtïa kïammakka.	救いもなく横たわることになる者のため

(28)　čakalïččï「(放牧の移動痕が) こんがらがっている，もつれている」

Haatar ülüjän ölbötün,	せめて凍えて死ぬことがないようにと
äräji körbütün ihin.	そんな不幸があるのを知っているからだ
üördärä hürdääk ïraappït,	(トナカイ) 群れは恐ろしく散らばり果てた
mäktiätin uhuu buolbut.	野性化してしまうものもある始末だった
Aakular ätä hïld'allar,	馴鹿たちは声をあげて鳴いている
Tulajak tugut kördüktär.	捨てられた仔のようになってしまった
Kännigä d'aktar orputa	後に残された女がいた
Onton biäs d'ïllaak ogoto.	傍らには５つの子どもがいる
Ölbütü biir d'iägä munn'ar,	死せる者達を一つの家に集めた
Balïktïï toŋoron ihär.	魚のように凍ってしまった
Kün uota tïgarïn kïtta.	日の光が差し込んで来たとき
Ogotun ïgïran diäbitä.	子どもを呼んで言った
-Uokkun kaalaa. Ututuma.	おまえの火を大事にしなさい　消してはいけない
Itinän haŋata bïhïnna.	そう言い残すと母はことときれた
Korgujan uol ogo ïtïïr.	息子は飢えて泣いた
In'ätin turuora hatïïr.	母を起こそうとした
Hägärim, kim anï taptïaj ?	かわいそうに今となっては誰が愛しんでくれようか
Kim boskuoj taŋahï tigiäj ?	誰がきれいな服を縫ってくれるだろう
Ïtaan häniätä baranna,	泣き疲れてしまって
Hïlajan utujan kaalla.	泣き寝入りに寝てしまった
Turbuta uota utujbut	目が覚めると火は消えていた
In'ätä kam toŋon kaalbït	母はすっかり冷たくなっていた

Ahïan bagaran kostonor,	お腹が空いていることに気がついて
Busput ättäri bordonor.[29]	煮た肉を片端から食べた
Buolaktan toŋ äti bulla,	外に出て　凍った肉を見つけて
Tiihinän tiniktään kirdä.	歯をたてて骨からむしりとってかじった
Toŋon huorgaŋŋa huulanar,	冷たくなった布団にくるまり
Okton karaga biilänär.	疲れきったその目をつむる
Mas töbötüttän kün ojdo.	木の頂きに陽がかかるようになった
Källilär kihilär bilsä.	人々がやってきた
Ït daa ürärä billibät,	犬が鳴くのも聞こえず
Utarï kim-daa taksïbat.	誰一人として出てくる者もない
Uol ogo kihini körön,	あの子どもは人を見て
Orun annïgar kistänän,	寝床の中に隠れてしまった
Mummut kaas ogoto buolbut,	迷い子になった鴨の子のように
Kihini bïlïr umnubut.	人のことを忘れてしまったのだ
Huraktan hurak buolbuta,	人から人へと語り継がれ
Käpsältän käpsäl tijbitä.	話しが伝わっていった
Hiäbitä buospa urduhu,	猛威をふるった疱瘡が
Kääspitä hogotok ogonu.	たった１人　子どもを残したのだ
Bu ötök hirdärgä kim-daa	この廃墟のあるところには誰１人
Hugastïï tüspät anï-daa.	未だに近づこうとはしないという

(29)　bordon-「食べ物を選り好みしない，何でも片端から食べる」

II　第二部　バフルガス

Tulaajak ulaatan ispitä.	みなし児は育っていった
Tïhïlïï halaan iippitä,	雌鹿がするように育てているのは
Kïïčaa[30] aattaak in'ätä,	クウチャという名の母だった
Ujbaan[31] buolbuta agata.	ウイバンという名の父だった
- Ölüüttän kistään, - diillär,	死に取り込まれないよう隠さねばと言い合って
Bahïrgas[32] di-di aattïïllar,-	バフルガスという名をやがてつけた
Ït ügüs Bahïrgas aattaak,	犬によくある名前である
Tïïnnaak hïrïttïn muŋnaak.[33]	生きて哀れな者という意味である
Hiittänär[34] buolbut kämigär,	漁の網が張れるようになった年
Hïrgaga miinär d'ïlïgar.	橇をあやつれるようになったその年のことだった
Iippit, taptaabït täätätä,	育ててくれた愛しい父が
Tïstïï, tiriilii hüppütä.	忽然と毛が吹き飛ぶように消えてしまった
Bahïrgas huptu küüppäliir,	バフルガスはずっと待っていた
Hïrgalaak tïahïn ihilliir.	橇の音が聞こえてきても
Täätätä amattan kälbät,	やっぱり父は帰ってこない
Ïttara kiähännän ürbät.	晩になっても犬が鳴くことはなかった

---

(30)　Kïïčaa「クウチャ」は養ってくれた母の名前

(31)　Ujbaan「ウイバン」は養ってくれた父の名前 [Ujbaan < *rus.* Иван「イワン」].

(32)　Bahïrgas「バフルガス」は孤児の男の子のあだ名．幼い子供に厄災除けのおまじないとして故意に縁起の悪い名をつける風習がある．「生きて哀れな者」の意．

(33)　muŋaak は「苦労の多い」を表すが，人に呼びかける時につけ，親愛の情を表す．cf. Bahïrgas, muŋnaak!「バフルガス，いい子，かわいい子！」

(34)　hiittänär「ヒート仕掛け漁をする」hiit「ナリム（かわめんたい）やカマスやクンジャ（あめます）をとる漁罠」[hiittänär = hiit+-tää（動詞形成接辞-LAA）+ -n（再帰態接辞）+ -är（3sg.pres.）「ヒート仕掛け漁をする」]

Biirdä Bahïrgas oonn'on,	ある時　バフルガスは遊んでいて
Algaska käästä kaarïnan,	うっかり雪玉を投げたとき
Baaj uolun atagïn tapta,	金持ちの息子の足にあたった
Ubaja kobuluu ojdo.	その兄が怒って飛んできた
Baaj kaana d'äbinnii öttö,	金持ちの血はどす黒い
Uol ogo kulgaagïn kapta,	バフルガスの耳をば掴むと
Kappït, ulluŋnuu muskujar	靴をひっくり返すかのようにもみくちゃにした
Ogotun Kïïčaa bïld'ahar.	クウチャは子どものところへ飛んでいく
Onton ogotun aartïïr,	それから子どもに言って聞かせる
Kaanïn orgujakaan hotottuur.	血をそっとふき取ってやる
Kiähännän ïallarga käpsiir,	晩になって近所の衆に話しをした
Baajdarï hürdääk kohuluur.	金持ち達をかんかんになって非難した
- Ogoto bäjätin bappït,	あんな子どもはろくなことがない
Abaahï tiriitin käppit.	悪魔が毛皮を着ているのさ
Üdümär, bačča haahïttan,(35)	あんな若いうちから嫌なやつさ
An'aga bïlïr hïttïjan.(36)	もの言いだってろくでもない
Bahïrgas turbutun kännä:	バフルガスは大人になった
- Kohus, - baaj Boldos(37) diäbitä,	一緒にやらないかと金持ちボルドスが言って来た

(35)　üdümär bačča haahïttan「若い頃から(小さい頃から，このころから)邪悪だ」; üdümär「邪悪な」「血も涙もない」

(36)　an'aga bïlïr hïttïjan「言葉使いが悪い，汚い言葉を使う」の比喩的表現．逐語的には「彼の口は恐ろしく腐っている」

(37)　Boldos「ボルドス」(金持ちの名前)

- Uonča tabata[38] ülüülüöm,	10 頭のトナカイを貸そう
Timir hügäbin gäriästiäm.	うちの鉄の斧も借りてくれればいい
Kïïčaa aartahar uolun:	クウチャは息子に言って聞かせる
- Boldos ït-kihi. Bilägin ?	ボルドスは犬畜生のような者だよわかっているのかい
Köröör, albïnnïa änigin,	見ててごらん　おまえのことを
	だまくらかそうとしているのさ
Tölüö huok äräjgin, muŋŋun.	ちゃんと支払おうなんて気はないんだから
	おまえが目を見るだけだよ
Kühün. Kaar tüstä. hir toŋno.	秋になった　雪が降ってきた　寒くなった
Tulaajak ärgijän källä.	みなし児のバフルガスは戻ってきた
Ikki baltïta üörällär,	二人の弟は大喜びだ
Töhökkö haba tühällär.	とにかくバフルガスに抱きついた
Aan diäk oloočču ataktar,	扉の所に短靴が
Hïalahar kördük hïtallar.	イトウ魚のように脱ぎ捨てられて
Irän kajagas appaŋnïïr,	穴があいたままころがっている
Onon ugunn'a bïltaŋnïïr.[39]	そこから靴底がだらしなくのぞいている
Bahïrgas tuok diäj. Haŋarbat.	バフルガスは何をか言わん　ただ黙するのみだった
Hïrgata dar mas. Iččitäk.	櫂には積み荷一つなく空のまま
In'ätä barïtïn taajar,	母のクウチャはたちまち飲み込んだ
Hürägä buustuu ïgajar.	心は冷え冷えするばかり

(38)　taba-ta; -taは分格接辞．ヤクート語では通常，命令文にのみ使われる分格が，ドルガン語では平叙文にも使われる．「10 頭ほどのトナカイを私は分配しよう」

(39)　bïltaŋnïïr「のぞいている，見えている」? ; cf. Stachowski (1998) byltaŋā- "[z.B. durch das Fenster] hineinschauen, reinguchken"

Onton huraktar buollular.	やがて　知らせが届くようになった
Ǐjaak ularïjda dähällär.	世の中が変わると皆が言い合っている
Kïhïn ïstanuok tärillän.	冬になって指令が届いた
Tüün, künüs čuohunan aaraan.	夜といわず昼といわず猟道を通じて伸びていった
N'uuččalar d'onu komujan,	ロシア人がやってきて皆を指導して
Kolkuohu tïaga tärijän.	コルホーズがツンドラにも組織され
Bahïrgas biirgä hïld'ïhar,	バフルガスも加わって
Hübäni, munn'agï tärijsär.	ソヴィエト会議や委員会が作られた
Barankin - D'änihiäj (40) kupeha	バランキンという名のエニセイ川あたりの商人が
Kürään Noskuoga (41) kälbitä.	こっそりハタンガに入り込んできて
D'onu butugastïï iirpit,	人々に賄賂を渡して取り込んで
Uogun bu hirgä tahaarbït.	この土地に大変な力で勢力を張っていた
Kara hanaatïn kistiir,	腹黒い狙いは面に出さず
Kommuniska tiihin katïïr.	コミュニストにも歯をむき出さず
Biirgä munn'agï oŋorsor,	ある時　会議に出て来て
Atïïhït buolan hïld'ïhar.	商人も一緒に参加した
Onton huol aara ölörtüür.	それから道中のあちこちで人殺しが起こるようになった
Horogu anaan äräjdiir.	何人も不幸な目に遭う者が出た
Jakut komsomol hüppütä,	コムソモールのヤクート人がいなくなった

(40)　D'änihiäj「ジェニヒエイ」はエニセイ川のドルガン人による呼称．[ロシア語の軟母音 e はしばしば有声破擦音で借用される．また母音間で s は h に変化するのはヤクート語と共通]

(41)　Nouskuo "Xatanga"「ノスクオ」は現在のハタンガ（区）を指す．

Bahïrgas dogoro ol ätä.	バフルガスの友人だった
Dulgaannar hin biir hakalar,	ドルガン人とヤクート人は同じだ
Osipov haŋatïn iställär.	オシポフの話しをよく聞いた
Bïhïïnï - hïrïïnï bilbitä,	振る舞い方もよくわかっていた
Ütüögä d'onu tarpïta.	良い方向へとみんなを引っ張ってくれた
Komsomol otrjadï tärijdä.	コムソモールの捜査隊を出した
Bahïrgas ämiä kördöstö.	バフルガスももちろん探した
Töŋürgäs aajï kötütär,	切り株ひとつひとつを見て回り
Čäkčäkää buoluo oŋojor.	盛り上がったところがあればひっくり返して調べた
Ïalï barïtïn baraata.	近隣をくまなくしらべ
Haaskï huollarï kärijdä.	春の地面についた足跡を調べて回った
Manna turuulaan turbuttar.	と　そこに途切れたところがあった
Üs kihi ätä äbittär.	三人が居たはずなのに
Bahïrgas huollarïn irdiir.	バフルガスがその足跡をつけていくと
Kömükkä biilinän hötüölüür.	深い雪の中に腰までつかって行った
Tuok irä manna buolbuttar ?	ここで何をしていたのだ
Atïïrdïï karsan möŋpüttär.	雄獣のように争った跡がある
Ikki huol mantan tönnübüt.	二人分の足跡はそこから戻っている
Osipov bu hirgä ölbüt.	オシポフはここで死んだのだ
Bahïrgas kaarï tabalïï,	バフルガスはトナカイのように
Dälbi täbistä kahïïlïï.	夢中で叫びをあげながら雪を掘り返した

O! Bu hïtar dogoro. Bulla.	ああ　そこに友が横たわっていた　やっと見つけた
Körön karaga karaarda.	その目は黒ずみ
Hïrajïn dälbi käjbittär,	顔は傷だらけだった
üŋüünnär (42) batarï aspïttar.	あいつらが刃物で突き刺したのだ
Äjägäs, öjdöök uol ätä.	気だての良い頭の良い若者だった
Barï d'on gini diäk buolbuta.	人々が皆　集まってきた
Kïjŋanan Baraankin baandata,	口々にバランキンの一味を非難し
Tordoktuu tïïra tarpïta.	隠された陰謀が明るみに出た
Kaariän Bahïrgas dogoro,	カーリエンという友達がいたが
Hïtar kaarga tibillä.	やはり吹雪の中に雪の上に倒れていた
Kojut komsomol otrjata	すぐにコムソモールの捜査隊がでて
Baandanï hin biir, hippitä.	やつらを捕らえることが出来た
Boločanka oŋuor, kočogo.	ボロチャンカの小高い丘に
Kostor Osipov oŋuoga.	オシポフの遺体が埋葬されている
Ügüs kommunist ölbütä.	沢山のコミュニスト達が命を落とした
Itinnik aajdaan (43) turbuta.	こうした争乱の時があったのだ
Bahïrgas körör biliätin,	バフルガスはその人の知恵を見てきた
Öjdüür Osipov haŋatïn.	賢かったオシポフの話しを思う
Kahuon da kiähäni mäld'i,	幾晩を共に過ごし
Ïjan biärbitä bukvanï.	文字を教えてくれたことだったか

(42)　üŋüünnär; üŋüü「槍」-n- ? -när (pl.)

(43)　aajdaan「コミュニスト達の死について動揺し，(多くのことが語られ，人々は良い人物等の死について憤慨した)」

Anï Bahïrgas oloror,	今　バフルガスは机に向かい
Mahuorka tahïgar hurujar.	マホルカ煙草の紙に文字を書く
Tïllarï tahaara hatïïr,	言葉を書き連ねようとして
Kaarga bukvanï ojuuluur.	雪の上にも文字を書く
Hajïn hinnälii[44] bukvalar,	夏にはそういった文字を
Kumak ihigär hïtallar.	砂の上に書いてみる
Onton učuutal kälbitä	やがて先生がやってきた
Ulakan üöräk turbuta.	大切な学びの時間が始まったのだった

III　第三部　出会い

Nïkïïnï[45] kïtta Bahïrgas,	ヌクーとバフルガスがいる
Ostoolloro toloru as,	テーブルにはご馳走が一杯である
Kïrd'an baraan körüstülär,	年をとって久しぶりに会う二人である
Onu - manï käpsättilär.	あれこれ　話すことが一杯ある
Bahïrgas häriigä ätä,	バフルガスは戦争に行った
Äŋin äräji körbütä.	いろいろ大変な目に遭ってきた
Belorus dogorun kïtta,	白ロシア人の仲間と一緒に
Biirdä plenŋa tübästä.	ある時　捕虜になった
- Uhuu tabalïï ojbupput,	野生のトナカイのように逃げ出したんだ
Tahïččï kürään kuoppupput.	逃げて逃れて　結局逃げおおせたのさ
Onton atagïn taptarbït,	それから足に弾が当たったこともある

(44)　hinnälii「文字を並べて書き連ねて，読み書きを習って」
(45)　Nïkïï「ヌクー（男性の名前）」(Nïkïï < *rus.* Nikolaj「ニコライ」)

Kïïllïï kaana ustubut.	野生の大鹿みたいに血が長く引いて流れたさ
Tatarin kätit argaha	タタール人の友達が大きな肩で
Attïï hügän ilpitä.	馬に乗せるみたいに背負ってくれた
Ätiŋnii ätän aaspïta,	雷が落ちるように猛烈に過ぎていったが
Kihi umnubat häriitä.	人間はあの戦のことは忘れられないさ
Bïjïl belorus dogoro,	今年　その白ロシア人の友達が
Ïgïran aktan körüstä.	誘ってくれたので会いに行ってきた
Öjdüür buomba tiärbitin,	爆弾が降り注がれたのを覚えているし
Hir - in'ä bïlïrgï ätin.	その大地の昔の様子を覚えているが
Anï guorattar turbuttar	今や　あちこち街になってて さ
Mastar kögörön üümmüttär.	樹木も育ち　緑も豊かだったよ
- Atagïm irä hontuta,(46)	こちらの足ばかりはやっぱり駄目だね
Oŋuoga uhaan üümmätä,-	骨がどうも良くなりはしないよ
diän Bahïrgas kurutujar,	と言ってバフルガスは哀しげである
Ataga kömüllään ïald'ar,	足が痛んで辛いことがあるよ
Balïktïï karaga himpät,	魚の目のように目がつむれないんだ
Horok tüünü utujbat.	時々　眠れない夜がある
Onton koloruktan ïlla	それから　棚から持ってきて
Uolun külügün köllördö.	息子の写真を見せた
Tuollubut körüŋnääk lüötčük	一人前のパイロットになって
Samolet attïgar turbut.	飛行機の傍らに立っている

(46)　hontuta; h は強調.

Bahïrgas hïraja tätärär,	バフルガスの顔は赤くなって
Ogotun aktan ïmajar.	遠くの息子を愛おしんで微笑んでいる
Nïkïï uola ïraak hïld'ar,	ヌクーの息子も遠くに住んでいる
Haldaat buolan huruk ïïtar:	兵役に出ているが手紙をよこした
- Bärdankanï bilbätägim,	ベルダン銃なんて知らないが
raketaga üöränäbin.	ロケットのことを教わっていると
Ulakan uola tabahït,	長男はトナカイ飼育者だ
Bïlïrïïn ordenï ïlbït.	去年　表彰された
Kïïha guorakka oloktook,	娘は街住まいで
Nïkïï ïallana barbïttaak.	ヌクーは遊びに行ったりする
Noroliskajï (47) bilbitä,	ノリリスクを知っていた
Tabannan tardïï tarpïta.	トナカイを連れていく道筋だった
Pilikaj (48) purgaalaak hirdär,	ものすごい吹雪の吹き付けるところだった
Kihini tüülüü kötütär.	人間なんて毛のように吹き飛ばされそうだった
Öjdüür ol ajan hïrïïtïn.	どんな道だったか覚えているさ
Kännikii hätii tabatïn,	最後の橇のトナカイだって
Muostarïn amattan körbökkün,	その角さえ絶対に見えないよ
Hïrga da ürdügär turaŋŋïn.	たとえ橇の上に伸び上がったってね
Onnuk čaattaak karaŋa.	そんなふうにもうろうとした闇の中さ
Tïmnïïnï tïmnïï diäbäkkä	寒さをものともせずに

(47)　Noroliskajï「(地名) ノリリスク」(ドゥジンカ区にある工業都市)
(48)　pilikaj「大変強い吹雪，ほんの少し先も見えないくらいの強い吹雪」

Maŋnajgï Sovet ologo,	最初のソヴィエトの暮らしは
Kïtaanak hïrïïlaak ätä.	厳しくて大変だったさ
Anï samolet üksääbit,	今では飛行機も増えたし
Tahagas tahïïta älbääbit.	貨物も随分　届くようになったよ
Bihigi hirbit hir kördük,	私達の大地もまた他の大地と同じく
Töröön ulaappït bihikpit.	私達も大きく育って来たものさ
Buruja buolbatak karaŋa,	闇そのものが悪であったとは言うまい
Tïmnïïta kolommot horgo.	闇がそのまま不幸だったわけではない
- Höktüm, - diätä, - ularïjbïtïn	驚いたね　様変わりだねと言った
Ulakan guorat buolbutun.	大きな街になったものだ
Ïraak kögörör kajanï,	山がやっぱり青く見えるから
Araččï taajbïta Nïkïï.	何とか昔の面影がつかめるねとヌクーが言う
Massïna barïta kanïï,	車はどれもこれも
Kün aajï hïrsïï da hïrsïï.	毎日　走り抜けていく
Ilä tibiilii kaar kötör,	まるで吹雪のように雪が舞う
Kännilärittän burgajar.	後には霞がたっている
Buruo gaahï ühüs uola,	三番目の子はガス関係さ
Hitimnii hirtän hubujda.	大地にガス網を建設してねとヌクーが言う
Bïlïr Nïkïï bu buruottan,	昔だったらそんなガスなど見たときには
Kürämmitä kuttanan.	逃げ出して大騒ぎだったよ
Äbäkää d'iätä diäbitä,	熊の住処に違いないって

Tuora mahï bïrakpïta,[49]	斜めに木をおいて通せんぼして
Onon kïlïï tardïspït,	うっかり　踏み込まないように
Kan'ïspakka kötüppüt.	とんで逃げてかえったものだった
Ïallar östön kuttanannar,	みんなそうして口にも出さず怖がった
Hürdääk ïraak köspüttär.	とにかく速く遠くに逃げた
Anï horok tïataagïlar,	今じゃあ　ツンドラのみんなも
Ol gaahïnan astanallar.	このガスで料理をしているんだからねえ
Ügän käpsätii ihigär,	話しが盛り上がっているときに
Palagiäj ämääksin kiirär.	ペラゲヤ婆さんがはいってきた
- Kaja, kälin bihiäkä,	おおい　うちへ寄っておくれよ
Kïïhïm kïïha tönünnä,	孫娘が戻ってきたのさ
Duoktur üörägin bütärdä.	医者の勉強を終わってね
Taŋaspar kataabït timägä.	私の着物にあの子が縫いつけたボタンがさ
Tuurata tulla iliginä,	まだ千切れるずにいるうちに
Körögüt, bïlïr ärgijdä	聞いておくれよ　もう帰ってきたんだよ
Hirigär ülälii källä.	こちらで仕事するっていうんだから
Anï Bahïrgas oloror,	今　バフルガスは卓について
Palagiäj kïïhïn kïïhïgar.	ペラゲヤの孫娘に話してきかせる
Öjdüür tulajaak buolbutun,	孤児だった昔のこと
Kïïčaa in'ätä iippitin.	クウチャ母さんが育ててくれたことを

(49)　tuora mahï bïrakpïta「斜めに木を投げかけて」；天然ガスが出ているのを畏れて，後から通りかかる人が近づかないように通せんぼの意味で木の棒を道に斜めにおくことがあった．

Kajtak komsomol ülätin,	コムソモールの仕事がどんなだったか
Bastaan, tuksaran ispitin.	リーダーになったり仲裁したりしたことを
Onton radiba[50] tïa hirin,	それからラジオがツンドラへ
Härättä härii buolbutun.	戦争の知らせを伝えたことを
Kas da kosobuoj[51] kihitä,	何人の貨物橇の人が
Tabannan häriigä barda.	トナカイで戦いへ赴いたことか
Kïïčaa uolun ataarda,	クウチャは息子を送り出し
Tönnön kälärin körbötö.	息子が戻ってくるまで生きていなかった
"Sovetskij Tajmïr" gazetka,	ソヴィエト・タイムル紙といえば
Barï d'on högön aakpïta.	みんな驚いて読んだものだ
Bahïrgas tuhunan ügüs	だってバフルガスの記事が一杯載ったのだ
Käpsällär äŋin kohuun ös.	多くの手柄話が載った
Mutuktuu nemihi holoon,	幹から枝を切り出すようにドイツ人を追い払った
Häriigä kommunist buolan.	戦においてもコミュニストだった
Komsomol biliätin ihä	コムソモール証を取り出すと
Mannïk bäliätii huruga	ほら　サインが入っている
"Üjägär ädär buol",-dällibit,-	「常に若くあれ」と書いてある
-Ol ihin bäjägär käästibit.	自分でもそう言い聞かせてきた
Hoččotton ikki biliättääk,[52]	2枚の証明書[52]を持っているのだ

(50)　radiba < *rus.* радио「ラジオ」；他に radima という形もある．

(51)　kosobuiä「冬期に使用する貨物用の橇」

(52)　ikki biliätääk「二枚の証明書を持っている」の意．コムソモール（共産青年同盟）証は通常，脱退時に返却することになっているが，特に優れた活躍のあった者は返却せ↗

Ädär komsomol bïhïïlaak.	コムソモール証保持者である
Bahïrgas ostoolgo källä,	バフルガスはテーブルに戻ると
Sekretar' attïgar turda.	書記長の側にたった
Partijnïj biliätin ïlla,	党の証明書を出した
Arïjda, hapta, ilbijdä.	開いて　閉じて　埃を払った
Muŋ küčümägäj künnärgä,	本当に大変な時代だった
Partija äränän biärbitä.	党は希望を与えてくれた
Kottorbot hanaa kïajbïta,	うち勝ちがたい思想があった
Bahïrgas tïïnnaak kälbitä.	バフルガスは生きて戻ってきた
Partbiliät gini bïhïïtïn,	党員証は彼の人生について
Öjün, ülätin, ologun,	知識　仕事　生活について
Kattïï arïjan biärbitä,	繰り返し　道を示してくれた
Ulakan kömöhüt buolbuta.	大きな助けとなってくれたのだ
Partija ügüs horugun,	党の多くの課題を
Hitärän bïhaaran ispitin.	迅速にやり遂げてきた
Bahïrgas anï muŋ d'ollook,	バフルガスは今とても幸せを感じている
Ügüs äräbil ogolook.	先が楽しみな子ども達もいる
- Čä, kamnïak, - diätin biliätin.(53)	さあ　出かけようと党員証に声をかけさせるがよい

↘ずに保持することが認められていた．バフルガスは優秀なコムソモール員であったので，脱退後も証書を保持し，共産党員証も持っているので，「2枚の証明書を持っている」と作中にある．

(53)　biliätkin と hirditkin はそれぞれ 2sg.poss.acc. の形で diätin「～に言わしめよ」の目的語．biliät ここでは「コムソモール証」，hirdit「レーニンの肖像のついた導き手」

Lenin hïrajdaak hirditin.	レーニンの写真のついた党員証に
Im taksar kämä buolla,	夜明けの朝焼けの頃になった
Ärdähit tïataagï turda.	早起きのツンドラのみんなが目を覚ます頃
Bahïrgas kamnaata tïaga,	バフルガスはツンドラに出た
Ïraatta "Buran" tïaha.(54)	ブラン車の駆ける音が遠ざかる
D'ä bärtääk bïhïjdaa hïrga,	まあ　この速い橇の具合のすばらしいこと
Töhölöök taba hïnn'anna.	何頭分のトナカイの働きだろう
Kïïl kördük "Buran" köppütä,	野生の大鹿の如くブランは飛ぶように走る
Hugahaata mas hagata.	森の境に近づいた
Hirdit dik gïnna ämiskä	乗り物はひとしきり揺れると止まった
- Turuŋ, načaaskaan, - diäbitä.	少しここで待っていてくれよと言いおく
Kömügü tabalïï karbaan,	深い雪の中をトナカイのように進んでいって
Ürdükkään čomčorgo tijän.	少し上の高台に登っていった
Tabaagï tohutan bïrakta,	タバコを割いて投げかけた
Ispiiskä mastarïn uurda.	燐寸棒もそこへ置いた
Barï tïataagï bïhïïta,	これはツンドラ人のやり方だ
Ölbüt kihigä kïlïïta.	死んだ人へのお供えものだ
Öjdüür Bahïrgas buospanï,	バフルガスはあの疱瘡のことを思い出す
Köhü - köhünän ilpiti.(55)	トナカイ飼育の人々をあの疱瘡が
	根こそぎ連れ去ってしまったことを

(54)　Buran「ブラン（モーター橇のブランド名）」

(55)　ilpiti: ilt-「引っ張る，運び去る」ここでは「恐ろしい疱瘡が一族を絶滅させたことを思い出している」の意.

Onton uolattar källilär,	やがて子ども達がやってきた
Oŋuogu körön taajdïlar.	お墓を見にやってきた
Ol ihin Bahïrgas käčäspät,	バフルガスにこだわりはない
Köstöök hirinän tumnubat.	トナカイ飼育者等がたどった道を迂回はしない

Kihi kuttanar ïarïïta,	かつて人が畏れた病は
Privivka küühün bilbitä.	ワクチンの力であとかたもない
Taba halïïrïn kördük,	トナカイが舐め取るように
Onnuta kaalbakka hüppüt.	あっという間に撲滅されたのだ

(1973 god, Dudinka) 1973年ドゥジンカにて

参考文献

Аксенова, О(Е). Е. (1973) *Бараксан*: Стихи/ Пер. с долган. В. Е. Кравца; Худож. С. Туров; Вступ. ст. П. Е. Ефремова. Красноярск Кн. изд-во,Красноярск.

Аксенова, Е. Е.(Огдо), Бельтюкова, Н. П., Кошеверова, Т. М. (1992) *Словарь долганско-русский и русско-долганский*, Изд. Просвещение, Санкт-Петербург.

Аксенова, Е. Е., Барболина А. А.(1990) *Букварь: Для 1 кл. долган.шк.* / Утв. М-вомчар. образования РСФСР., Просвещение, Ленинград.

Афанасьев, П. С., Воронкин, М. С., Алексеев, М. П.(1976) *Диалектологический словарь якутского языка*, Изд. Наука, Москва.

Барболина, А. А. (1995) *Картинный словарь долганского языка*, Изд. Просвещение, Санкт-Петербург.

Barbolina, A. A., Fujishiro, S.(eds.) (2001), *The Collected Works -Ogdo Aksenova- (Text, Japanese translation, Russian Translation & Commentaries)/CSEL Series*, vol. 4, University of Tokyo.

Василевич, Г. М. (1958) *Эвенкийско-русский словарь*, Гос. Изд. Иностранных и национальных словарей, Москва.

Ефремов, П. Е. (2000) *Фольклор долган*, СО РАН, Новосибирск.

Катараев, В. О. (1996) *Якутский геройческий эпос Могучий Эр Соготох (Памятники Фольклора Народов Сибири и Дальнего Востока)*, Наука, Новосибирск.

Коркина, Е. И. (1982) *Грамматика современного якутского литературного языка*, Изд. Наука, Москва.

Пекарский, Э. К.(1907-1930 / reprinted 1958-9) *Словарь якутского языка*,Изд. Академия Наук, Санкт-Петербург / Петроград / Ленинград.

Семенюк, Р, Г. (1993) *Огдо Аксенова / Библиографический указатель*, Таймырская окружная Библиотека, Дудинка.

Слепцов, П. А. (1972) *Якутско-русский словарь*, Изд. Советская энциклопедия, Москва.

Stachowski, M. (1993) *Dolganischer Wortschatz*, Nakladem Uniwersytetu Jagiellonskiego, Krakow.

----- (1998) *Dolganischer Wortschatz (Supplementband)*, Ksiegarnia Akademicka, Krakow.

----- (2002) "Русское заимствование в долганском языке", *Kyoto University Linguistic Research*, vol.21, Kyoto University Department of Linguistics, Kyoto. (in print)

Убрятова, Е. И.(1985) *Язык норильских долган*, Изд. Наука, Новосибирск.

Фасмер, М. (1964-1973) *Этимологический словарь русского языка*(т. 1-4), Изд. Прогресс, Москва.

Fujishiro, S. (1999) "Two linguistic materials from Dolgan in Tajmyr", *Issues in Turkic Languages (CSEL Series 1)*, pp. 75-103, Kyoto University, Kyoto.

藤代　節 (Fujishiro, S)(2000)「アイデンティティと言語変容」,『京都大学言語学研究 (*Kyoto University Linguistic Research*)』19号, pp. 95-115, 京都大学言語学研究室.